

ANNUAL REPORT 2021

2021年度 事業報告書



今こそポジティブネットのある豊かな社会を

パンデミックから2年目。夏には1年遅れの東京オリンピック・パラリンピックと重なるように感染第5波が到来し、全国のYMCAのプログラムに影響が出ました。12月にはオミクロン株が発生して渡航が制限され、多数の留学生が入国待機となりました。1月には過去最大の第6波に見舞われるなど、新型コロナの影響を受け続けた2021年度でした。

このような中「今こそ、ポジティブネット」のある豊かな社会を創造し、YMCAのレジリエント、リカバリー、リイマジネーションを目指そうと、日本YMCA中期計画(2021-2023)が6月の日本YMCA同盟協議会で承認されスタートしました。「光は、暗闇の中で輝いている」の中期計画基本聖句は、小さくされた人々の中にある光を輝かせることによってYMCAは地域の光となるという、社会課題に向き合うYMCAの姿を表すものです。

コロナ禍でストレスを抱えた子どもたちに体験活動を提供する、文部科学省の「子供の自然体験活動推進事業」の受託は2年目となり、各地でプログラムが展開され、YMCA東山荘で行われた「支援者のための心のリフレッシュプログラム」は、特色あるものと注目されました。学生YMCAは、オンラインでの全国集会や世界YMCAの活動に関わるなど働きを強め、会員数が増加してきています。

デジタル格差の中にある子どもたちへプログラミング教育を届ける「Amazon Cyber Robotics Challenge」ほかプロジェクト型の寄附による企業との協働、および他団体と連携した取り組みは、2022年度の「中期計画推進室・社会協働事業」部門の立ち上げにつながりました。

同盟協議会をはじめ、国内外の多くの会議がオンラインで行われました。日本YMCA研究所では、従来の主事養成研修、専門職管理者研修のほか、新たなチャレンジとして全10回のオンライン研修を実施し、全国各地から多くの参加がありました。

世界では、専制主義的な体制の国々で民主化弾圧の動きが強まったことから、パレスチナ、アフガニスタン、ミャンマーなどのための祈りの会を持ちました。2月24日のウクライナ軍事侵攻後は緊急支援募金を開始し、3月2日には日本YMCA同盟として戦争反対の声明を発表。8日には全国YMCA「共同の祈り」を開催。その後、ヨーロッパのYMCAと日本のYMCAが連携して、日本への避難を希望する方の支援活動を始めました。さらに在日ウクライナ人の団体ほか、さまざまな団体、行政、企業と連携し、避難者の来日後の生活支援も続けています。

21世紀とは思えない悲劇が続く中、YMCAはあらためて戦争反対の声をあげ、平和を求める人々と連帯し、暗闇の中にある方々に寄り添いながら、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を目指してまいります。2021年度もワイズメンズクラブをはじめ関係諸団体等、多くの皆様からの多大なご支援をいただきましたことを感謝と共にご報告させていただきます。

日本YMCA同盟 会長 川本 龍資
日本YMCA同盟 総主事(代表理事) 田口 努



Contents

- 02 日本YMCA中期計画2021-2023 1年目として
- 06 中期計画推進
- 07 ブランディング推進協力
- 08 ポジティブネット創造
- 09 学生YMCA
- 10 日本YMCA研究所
- 12 国際青少年センター YMCA東山荘
- 13 ウクライナ緊急支援
- 15 寄附・支援
- 18 日本YMCA同盟委員会報告
- 22 全国YMCA総主事会議関連報告
- 26 現勢 関係団体
- 27 日本YMCA同盟組織
- 28 2022年度事業方針・計画
- 32 全国YMCA一覧

ビジョン
日本YMCA中期計画(2021-2023)
1年目として



中期計画(2021-2023) 聖句・日本YMCA同盟2021年度年間聖句

「光は暗闇の中で輝いている」

(ヨハネによる福音書1章5節)

1 Positive well-being (ポジティブ・ウェルビーイング)

Positive well-being を提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。

一人一人のより良い健康のために、各事業や部会・研修会等でさまざまな取り組みがなされました。全人一貫教育の具現化としてのYMCA伴走サポートは既の実施していた5YMCAに加え、新たに10YMCAが導入、計15YMCA(約2,800名)でスタートし、入力されたエピソードは約15,000件になりました。世界規模の課題については、世界YMCA同盟及びアジア・太平洋YMCA同盟と共に、人権や教育、女性などの課題や災害に対し、迅速な情報共有や賛同表明、緊急支援金の送金などを行いました。ウクライナ侵攻においては世界のYMCAと連帯・協働し、人道支援を実現させました。



2 Youth Empowerment (ユース・エンパワーメント)

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。
YMCA は若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

ユースの企画を助成する「全国YMCAユースチャレンジ」では、食育や農業、環境倫理トレーニングなどSDGsを意識した5つの企画を採用しました。また中高生を対象としたEnglish Camp for Global Leadership (ECGL) をオンラインで実施し、2021年度もグローバル社会で活躍できるユースを育てるための各種のプログラムが行われました。スポーツを通じて女子の成長と活躍を促すNIKEとの協働事業「YMCA Girl's Program」「YMCA Trail Run for Girls」は、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団の助成を受けて開催しました。

3 Technology for social inclusion & diversity (テクノロジー・フォー・ソーシャルインクルージョン・アンド・ダイバーシティ)

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、
多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

オンライン化が定着し、工夫を凝らしながらさまざまな講演会やプログラムが実施されました。会議や研修会も場所を問わずに参加でき、遠隔地や海外とのつながりがより一層強められました。一方で、コロナ禍によりパソコンやネット環境が整わない、いわゆる「デジタル格差」が浮きぼりになり、課題解決の一環として「Amazon Cyber Robotics Challenge」を開始。児童養護施設の子どもたちを対象にプログラミングの学習機会を提供する取り組みを行いました。



4 Partnership (パートナーシップ)

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。

世界、アジアのYMCAと共に社会課題に対し活動を行いました。SDGsの実現としてYouth-Led Solutions SummitやCOP26に参画、クリーンエネルギーへの転換などに取り組み、貧困の課題に対しては、企業等の協力を得て生理用品の配布などを行いました。ワイズメンズクラブはもとより、アマゾンジャパン合同会社やローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団等企業との協働による支援活動は、多くの人の共感を呼び、さらに支援者と連帯を挙げました。日本NPOセンターとの「支援者のための心のリフレッシュプログラム」は20回を重ねました。

5 Change Agent (チェンジ・エージェント)

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨みChange Agent (Global Servant) の育成に注力する。

SDGsの実現を目指して取り組むユースの活動に加えて、電力を持続可能な自然エネルギーに転換するパワーシフトについては、全国展開に向けて意見交換を実施。いじめ・差別・偏見を考える「YMCAピンクシャツデー 2022」では全国でさまざまな取り組みが行われ、全国YMCAアフタースクール事業主催で行われた、いじめを考える子どもかいぎ「一人ひとりをたいせつに」には小学生79名が参加しました。

YMCA国際協力募金活動では「一人一人がChange Agent 社会を考える一員です」と呼びかけ、全国各地で展開されました。



6 全国のYMCA運動の連結ピンとしての同盟機能の維持に努める

昨年度組織再編した全国の事業推進会議は、対面がかなわない中で内容や構成を工夫しながらオンラインを中心に実施し、各事業部運営のさらなる強化を図っています。全国協力として運営状況の厳しいYMCAには近隣YMCAと協力し、日本YMCA同盟総主事が訪問し、基盤強化に向けて方策を立て進めました。

また、企業との協働プログラムの全国展開のための事務局として各方面の調整に努め、アジアや世界のYMCAの主催会議へのオンライン参加や情報の共有、発信などに意識的に取り組み連帯を強めました。

7 同盟事務局機能の効率化とYMCA東山荘の再建、運営強化を目指す

日本YMCA研究所はオンラインのツールを活かしながら全国の主事養成、スタッフ養成を実施しました。全国のスタッフに対してはブランディング、感染予防、リスクマネジメントなど各種の研修を月1回の頻度でオンラインで開催しました。同盟の職員は従来型の部門担当による業務のほか、プロジェクト型のチーム制の業務の実施により部門を超えて各種業務を進め、四谷・YMCA東山荘の一体化、効率化を図りました。YMCA東山荘は経費の削減、業務の分担化など工夫をしながら、夏場は感染拡大の第5波の影響を受けましたが、新しい食堂業者による食事内容も好評で、日帰りのプログラムの充実化を図ったほか、東京オリンピック・パラリンピック関係者や秋以降の利用、年末年始家族パーティの実施などにより、前年より宿泊は約3,000名、日帰りは約1,800名を上回りました。引き続きさらなる経営の安定化を目指します。

中期計画推進

中期計画の推進と委員会の設置

日本YMCA中期計画(2021-2023)が、6月19日に開催された日本YMCA同盟協議会にて承認されました。中期計画基本聖句「光は、暗闇の中で輝いている」をテーマに協議会の礼拝で吉岡恵生牧師が「光は小さくされている人々の中にある。その人々に近づき寄り添いその光を輝かせる場にYMCAがなるならば、多くの人がYMCAを通じて地域に光を輝かせる。」と語られました。このメッセージと日本YMCA中期計画策定委員からの5項目に沿った解説を盛り込んだ研修用動画を作成、併せて参考資料等にアクセスできる中期計画の

サイトを立ち上げ、全国のYMCAで中期計画の理解を深め推進するため活用されています。研修は、7月8日に西日本地区スタッフ、7月15日に日本YMCA研究所主催ブランディング基礎研修、9月11日に西日本役員研修などで行われました。

またこの日本YMCA中期計画は、世界YMCA同盟で策定が進められている『VISION2030』とも連動する内容となっているため、あわせて、全国のYMCAの事業方針、計画の立案にも活かされるよう、9月8日『VISION2030』の説明会をオンライン参加により共有しました。世界の加盟YMCAの3分の2となるYMCAから350名が参加、日本からは40名が参加し、2022年7月に開催される世界YMCA大会での承認に向けたプロセスについても話し合うことができました。2030年に向けて世界のYMCAが一致する指標を持ちながらそれぞれが活動することで、地域及び世界でYouth Empowermentの「選ばれる団体」となることを目指しています。

さらに10月には、具体的にこの日本YMCA中期計画が推進されるよう「日本YMCA中期計画推進委員会」を設置しました(委員長:中道基夫 P21参照)。本委員会が中期計画の推進について全国YMCAを俯瞰し、社会変化に即して専門家の見地を内外から得ながら、必要に応じて仕掛けや提案、全体としての循環を生み出し、連帯、応答をしていくことを確認しました。



中期計画を推進するため作成したブックレット

ブランディング推進協力

オンラインの利点を活かした連帯

オンラインが積極的に活用されるようになり、会議・研修やライブ配信などに用いました。これまで各事業部の研修や会議は年1回、集合しての開催が通例でしたが、オンラインによる参加のしやすさから複数回の交流会、情報交換会、研修、会議が行われました。また、事業の枠を超えた参加が増え、さらなる事業間協働やコミュニケーションが多く図られました。研修会などは録画による動画再配信を行い当日参加ができなかった方でも広く視聴ができるようになり、テクノロジーの活用が進められました。

イベントやキャンペーンの再スタート

2020年度は多くのイベントやキャンペーン、各種スポーツ大会が中止となりましたが、2021年度はさまざまな学びを通して得られた知見を活かし感染対策を講じたうえで、ウェルネス事業部が行うウォーターセーフティーキャンペーンや各種スポーツ大会などが再開されました。YMCA国際ショナル・チャリティーランは、感染症対策ガイドラインを策定し集合型で行った会場は7カ所となり、前年度よりおよそ1,800名増え、約5,000名が参加しました。ニューノーマルな社会に対応した運営のあり方を模索しながらの再スタートとなりました。

被災地域に寄り添う

8月17日、土石流により被災した熱海・伊豆山地区において地域の高齢者の健康維持プログラムや子どものリフレッ



「体を動かしながら、おしゃべりするのが楽しい」という声が聞かれました

シブプログラムに、同じ静岡県内のYMCA東山荘より指導者を派遣しました。避難所から自宅に戻られた被災者を対象に小学校体育館を利用し、YMCAのウェルネスプログラムのノウハウを活かし、楽しく、汗を流しながら被災者に寄り添う活動を展開しました。

ワイズメンズクラブとの新たな協働事業がスタート

YMCAの強力なパートナーであるワイズメンズクラブと全国規模で取り組む、新たな事業がスタートしました。SDGsの定める地域課題解決に向けたコースの活動に助成金を提供し、その活動に伴走していく「Y's×SDGs Youth Action」です。全国から18のコースのチームがエントリーし、選考された10チームが地域の課題解決に向けた活動をスタートします。ワイズメンズクラブとのより深いパートナーシップの構築の中でコースエンパワーメントの実践を進めていきます。

サンタクロースがやってきた

全国のYMCAでは、アマゾンジャパン合同会社による社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラムに参加しています。2021年は、11月1日から12月24日まで「みんなでサンタクロース」キャンペーンが行われ、全国23のYMCAの子育て施設で、子どもたちとのとびきりのクリスマスをお過ごしを願い、プレゼントリストを用意したところ、全国からたくさんのクリスマスプレゼントが届きました。届いたプレゼントで多くの子どもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときをもちたり、仲間とのかけがえのない時間を過ごしました。



全国の子育て施設にたくさんのクリスマスプレゼントが届きました

ポジティブネット創造

アジア・世界のYMCAとの連帯を強める

ネパールでの水害、ハイチでの地震、フィリピンでの大型台風による水害等、自然災害に対する支援の要請に、緊急支援金の送金を行いました。また2021年度は、世界の民主主義が脅かされる出来事が重なりました。軍事クーデターによる大きな影響を受けたミャンマーYMCAの同労の危機、軍事侵攻による恐怖と不安のなかにあるウクライナYMCAと、多数の避難者を受け入れた近隣諸国のYMCAに対して、世界、アジアのYMCAからの連帯の呼びかけに多くの仲間が応え、共に祈りをあわせました。

世界YMCA VISION2030策定に向けての準備が進む

「世界YMCA VISION2030」の策定に向けて、世界YMCA同盟総主事カルロス・サンヴィー氏による各国同盟総主事へのヒアリングや、タスクチームが実施するオンライン会議が各地域ごとに開催され、世界同盟に加盟する約60のYMCAから350名が参加しました。日本のYMCAからは約40名が参加し、2022年7月に開催される第20回世界YMCA大会での採択に向けたプロセスについて協議をしました。2030年までに世界のYMCAが一致する指標を持ちながら活動することで、世界最大のユースエンパワーメントを推進する「選ばれる団体」となることが期待されています。



『VISION2030』の草案作りが進みました

全国YMCAユースチャレンジ 5YMCAからの企画が採用

ユース自らが企画する地域への社会貢献活動や啓発活動に対して、1企画最大10万円の活動費の助成を行う全国YMCAユースチャレンジ。3年目となる2021年度は5企画が採用されました。新型コロナ感染拡大に伴う社会変化に対応した活動や、東日本大震災から10年が経って見えてきた新しい課題へのチャレンジ、子どもの居場所、テクノロジーを使った活動など、今を生きる若者のセンスが光る活動が選ばれました。企画の実施には必要に応じて、助言やサポートを提供しています。

日本のユースの課題解決力が 世界でも認められる

世界YMCA同盟による若者主導の課題解決サミット「YMCA Youth-Led Solution Summit」が「若者の雇用」をテーマに開催されました。新型コロナにより大きな影響を受けている若者の生活や雇用について、この分野をグローバルにリードするリソースパーソンからの講義、テーマ別ディスカッション等が、国や地域、時差を超えて、活発に行われました。日本のYMCAからは12名が参加し、サミット終了後に日本から参加したユースが企画した、「就農と若者の働き手を必要としている農家や企業とをマッチングさせるウェブサイト制作」の企画が正式に採用され、世界YMCA同盟からの助成金を用いて実際に展開される予定です。



ユースチャレンジでの子どもの居場所作りの取り組み（大阪YMCA）

学生YMCA

アフターコロナを見据え、 さまざまなチャレンジを実施

2021年度も、ほとんどの行事はオンラインで行いました。来るべきアフターコロナの時代を見据え、さまざまなチャレンジと共にプログラムを実施しました。

第47回全国学生YMCA夏期ゼミナール

夏期ゼミナールはオンラインで「アフターコロナをどう生きるか」をテーマに9月18日、19日に実施しました。運営チームとして13名の学生と2名のシニアが事前準備と当日の運営を担当し、一般参加者として9名の学生とシニア、スタッフ計33名が集まりました。

今回のゼミナールでは、これまで伝統的に続けてきたさまざまなプログラムの魅力を1、2年生に伝える、今後の継続方法を共に考える機会とすることに重点を置き、1日目に各種活動を報告するセッションを持ち、2日目にその内容についての質疑応答と自由な意見交換を行いました。

当日は運営を担当する学生のうち関東地方に居住する4名とスタッフ3名が日本YMCA同盟事務所に来館したことはパンデミック以来、初めて複数の学生が対面する機会となりました。

全国学生YMCAリユニオン2021

数年ごとに実施している学生YMCAシニアを対象とした、リユニオンを11月21日、オンラインで開催しました。開催のお知らせをEメールと合わせ、ハガキでも送るという工夫が功を奏し、全国の各世代から41名が参加しました。当日は

前半に3名のスピーカーの発題を経て、後半では参加者同士の自由な語りの場を持ちました。

134年の歴史を誇る学生YMCAに連なる学生YMCAシニアにはデジタル環境にあまり馴染みのない方もいますが、この2年、オンラインでの活動を経験されている方も多く、会の進行は非常にスムーズで、久方ぶりの再会を喜び合う時間となりました。

会の最後は学生YMCA出身の吉岡恵生牧師（日本基督教団高槻日吉台教会）による閉会礼拝で締めくくられました。

日韓学生YMCA交流プログラム

日本と韓国の学生YMCAによる第20回日韓学生YMCA交流プログラムが2月27日、オンラインで行われました。1991年から相互に訪問し合いながら30年目となる今回、本来ならば韓国の大学生が来日する予定でした。直接会えなかったことは残念でしたが、オンラインの特性を活かした交流のときを持ちました。

日本の学生7名の運営委員会が準備したプログラムは「駐韓・在日米軍」という、日本と韓国のどちらにも共通するテーマを扱いました。これまでの歴史や現在に至るまでのさまざまな論点を知り、両国19名の学生たちは、「今後の米軍基地と私たちとの在り方」などについて意見を交わし、自分たちだけでは気づけない視点や考え方に接することができました。

また、日韓文化交流では生中継でたこ焼きを作る様子や京都の街並みを見てもらうなど、文化紹介で盛り上がりました。最後には、対面での国際交流プログラムが再開したら、一番にお互いの国を訪問し合うことを約束しました。



夏期ゼミナールの1日目のプログラム終了後に行われた夜の交流会の様子



日韓交流プログラムでのお好み焼きづくりの実演と京都市内バーチャル旅行による文化交流

日本YMCA研究所

研修

専門職管理者研修

日 程：2021年7月19日～23日（5日間）

場 所：オンライン

研修生：6YMCAより13名

大久保里美（盛岡）	堀籠 紫沙（仙台）
門馬 鮎美（仙台）	荒山由美子（東京）
上原 永可（東京）	根上 薫（東京）
水澤 聖（東京）	石川 尚樹（横浜）
中瀬 竜太（横浜）	小只 知美（奈良）
水口 嘉代（奈良）	和田 真理（奈良）
山下維久子（京都）	

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、YMCAの福祉とブランディング、YMCAとキリスト教、現代社会とYMCA、エッセンシャルワーカーのためのストレスマネジメント、YMCAの専門職としての人材管理と育成

日本YMCAスタッフ研修ステップII

期 間：2021年9月30日～11月27日（59日間）

場 所：YMCA東山荘／在日本韓国YMCA／オンライン

研究生：9YMCAより12名

尾形裕一郎（盛岡）	荒井 浩元（とちぎ）
竹内 光世（茨城）	横山 弥利（東京）
三上 淳（横浜）	田邊 朋美（横浜）
村上 一志（奈良）	池田 聡美（大阪）
瀧中 慎介（大阪）	田中 信也（広島）
熊本四季子（熊本）	本田奈緒子（熊本）

テーマ：社会の回復に応えるYMCAをめざして—レジリエンス・リカバリー・リイマジネーション—

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、YMCAブランドとミッション、キリスト教概説、コロナ後の社会とキリスト教、YMCAの現状と課題、SDGsの視点からYMCAの活動を考



2021年度 ステップII修了生

える、世界YMCA VISION2030、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、YMCAとジェンダー理解、コロナ後の持続可能な社会の在り方を考える—再生エネルギーの活用—、インターネットネイティブな子どもたちの学びの可能性、災害時のYMCAの働き、困難な時代に必要なリーダーシップ

日本YMCAスタッフ研修ステップIII

期 間：2022年1月11日～15日（5日間）

場 所：オンライン

研修生：5YMCAより5名

中田 純子（山梨）	立山 英展（大阪）
谷川 尚（神戸）	竹井 幸義（広島）
新内 博之（鹿児島）	

主なカリキュラム：日本YMCAのブランディングとミッション、説教演習、事業開発・推進力の養成、ヒューマンマネジメント力の養成、日本YMCA中期計画2021-2023、世界のYMCAの働き—日本YMCAの役割と期待—

2021年度研究所オンライン研修

5月「新型コロナウイルス感染症対策（1）」

—コロナ禍での活動で私たちが気を付けること—

日 程：2021年5月19日

講 師：岩室 紳也氏

参加登録者数：116名

6月「新型コロナウイルス感染症対策（2）」

—現場で感染が確認されたときの対応—

日 程：2021年6月10日

講 師：岩室 紳也氏

参加登録者数：97名

7月「YMCAブランドとは—入門編—」

日 程：2021年7月15日

講 師：中道 基夫氏

参加登録者数：142名

9月「YMCAのプログラムとSDGs—基礎編—」

日 程：2021年9月17日

講 師：中村 絵乃氏

参加登録者数：23名

10月「YMCAにおけるダイバーシティ&インクルージョンの推進—海外のYMCAからの学び—」(ステップII公開講座)

日 程：2021年10月28日

講 師：Dian Shelton氏、池田 麻梨子氏

参加登録者数：29名

11月「YMCAのプログラムとSDGs—実践編—

気候変動とYMCAのパワーシフト」

日 程：2021年11月17日

講 師：小澤 雅志氏

参加登録者数：39名

12月「YMCA伴走サポートシステムについて—青少年教育の立場から見た伴走サポートの意義と導入事例からの学び—」

日 程：2021年12月17日

講 師：青山 鉄兵氏

参加登録者数：68名

1月「YMCA伴走サポートシステム フォローアップ研修」

日 程：2022年1月19日

講 師：有田 征彦氏

参加登録者数：11名

1月「新型コロナウイルス感染症対策(3)

—第6波に対して私たちが気を付けること—

日 程：2022年1月28日

講 師：岩室 紳也氏

参加登録者数：100名

2月「YMCAピンクシャツデー 2022講演会「ネット社会を生きる子どもたち フリースクールの子どもたちとの出会いを通して」(発達支援事業部会との共催)

日 程：2022年2月7日

講 師：田辺 克之氏

参加登録者数：110名

海外研修

アジア・太平洋YMCA同盟主催第38回アドバンスコース

日 程：2021年10月4日～22日

場 所：オンライン

参加者：2YMCAより2名

青山 夏樹(茨城) 福田奈里子(山梨)

内 容：コロナ禍にてアジア・太平洋地域が直面している課題を、それぞれの国/地域のYMCAがもつ課題とも絡み合わせ、どのようにYMCAミッションを共有し、YMCA運動を作り上げていくかを、アジア・太平洋地域のYMCAのスタッフとともに、オンラインで学んだ。

主事資格

2021年6月1日付認定者・論文タイトル

中村実千代(とちぎ)

現代YMCAにおける人材育成への提言

山梨 雄一(東京)

東京YMCA社会体育・保育専門学校40周年と今後について

池田麻梨子(東京)

多様化する日本社会のために働くYMCA

—日米YMCA比較を通して—

益 聡(横浜)

地域に必要とされるYMCAの新たな拠点構想

—ポジティブネットのある縁側—

中川 喬之(富山)

持続可能な富山YMCAを目指して

—ウィズコロナをコースと共に歩む—

小林 直樹(大阪)

持続可能なYMCA高校生事業を目指して

—大阪YMCA高校生事業における実践と特徴—

藤田 良祐(神戸)

YMCAにおけるファンドレイジング

沖島 均(広島)

地域と共に歩むYMCA活動とは

—福山ランチ閉鎖から学んだ一考察—

家守 治司(広島)

広島YMCA保育園が目指すキリスト教保育

伊藤真太郎(熊本)

熊本YMCAウエルネスの再生のための一考察

—私たちの意識改革そしてウエルネス事業が目指すべきもの—

国際青少年センター YMCA東山荘

年間概要

2年続けてのコロナ禍で利用者が減少しましたが2020年度と比較し宿泊者は約1.7倍(8,209名)、日帰り者は約1.3倍(7,835名)となり少しずつ回復の兆しが見えてきました。夏には御殿場・小山地区が東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技会場に使用され、警備の方たちの宿舎としても利用いただきました。また静岡県の感染症対策の安全・安心適合施設として認可され、さらに安心して利用いただけるようになり、学校関係の利用は2020年度より12校増え32校となりました。職員の健康管理も継続して注力し、利用者はじめ皆さまのご協力により、運営することができました。

提供プログラムの充実を図る

オープンエアのため感染リスクが低い野外活動の学校利用は、2020年度より11校増え28校となりました。新型コロナ感染拡大の状況を踏まえて年明けまで延期された学校では、富士山の一番美しい冬の姿に子どもたちが目を見張っていました。

主催事業では2年ぶりに富士登山を行いました。長年ご協力をいただいている山小屋のご厚意もあり参加者、リーダー総勢74名が山小屋に宿泊し美しい日の出を見ることができました。毎月開催したピラティス教室は2年目になり固定参

加者が増え、地域の定期プログラムになってきました。毎年恒例の年末年始家族パーティーは2021年12月30日から2022年1月2日まで3泊4日で開催し、136名の参加がありました。餅つき、凧作りなどを楽しんでいただき親睦を深めていました。スタッフ一同皆様をお迎えすることができ感謝のときとなり、開村式、閉村式では祈りのときを持ち神様が共に居てくださる喜びをわかちあいました。

地域との協働

活動2年目となった御殿場フードバンクはコロナ禍で生活に困窮される方が増え、より活動が重要視されました。社会福祉協議会、市老人クラブ連合会、市内企業等が協力し年3回の活動を行いました。12月、3月には食材集荷場所の提供を行うと共に関係企業へ協力依頼を行い、フードバンクへの新しい協力者を獲得することができました。

いじめについて考え行動するYMCAピンクシャツデーキャンペーンには今年も御殿場ロータリークラブのご協力と御殿場市・小山町両教育委員会の後援を受け、両市町の小中学校全24校にポスター、パンフレットを配布しました。

地域の課題となっているナラ枯れ被害は富士山裾野全体に広がっています。YMCA東山荘だけでも約150本の樹を伐採しました。YMCA東山荘がある東山区と協力し荘内を流れる寒沢の周辺を伐採しています。



(左) みんなで声をかけ合って頂上を目指しました (右上) 黙想館からの雄大な富士山 (右下) キャンプの一コマ 冷たい川でひと休み

ウクライナ緊急支援

YMCA stands for peace; YMCA works for peace

YMCAは平和を希求し、平和のために働く

2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、首都キーウ、ハルキウ、オデーサ、ドンバスへの攻撃は、かけがえのない命を脅かし、一瞬にして、ウクライナの人びとの日常を奪いました。そのような中、ヨーロッパ各国のYMCAは攻撃から逃れ避難する人びとの支援に迅速に取り組みました。



ウクライナYMCAの動き

ウクライナYMCAは侵攻後すぐに、攻撃を受ける地域に住む人びとが国内の他の地域に避難し、安全に過ごせる場所を用意しました。ウクライナYMCAの25の拠点を中心に宿泊、食料、衣料品、衛生用品の提供が行われました。また、爆撃のショックによる恐怖心を抱える子どもと若者に、心理的、社会的な緊急サポートやトラウマケアも進められています。

ウクライナ近隣諸国のYMCAの動き

緊急フェーズ

ウクライナYMCAの活動は、その初期段階からポーランドやモルドバなど近隣諸国にあるYMCAとの連携が取られ、国外へ避難する人びとを24時間体制で国境付近で受け入れ、生活支援が行われました。近隣諸国に避難するのは女性と子ども、高齢者が中心です。戦争から逃れるために初めて海外へ行き、まったく新しい環境に身を置くことになった避難者を手厚くサポートしたのがYMCAでした。これらの支援は政府や他のNGOなどとコンソーシアムを組み、避難者の対応や物資の提供等が持続的に実施できるように、総合的な仕組みを構築して継続されています。

中長期のサポートを視野に

ポーランドYMCAでは緊急支援を続けると同時に、ウクライナからの避難者がポーランドの都市に定住できるための準備が進んでいます。定住のための在留資格の取得、住居の手配、若者や子どもたちの教育や就労など、生活を中心とした中長期的な支援を続けています。

世界YMCA同盟・ヨーロッパYMCA同盟からの共同声明 (2022年2月23日)

ヨーロッパYMCA同盟を中心にウクライナYMCAと近隣諸国のYMCAが状況を把握し、世界大のYMCA運動によって各地域、国、ローカルのそれぞれの立場で役割を果たすこと、そして多様な背景を持つヨーロッパのYMCAの平和構築の取

り組みが、非常に重要なものであると述べられました。この声明は侵攻直前に発信され、ロシアを含むすべてのYMCAに平和への理解と和解のための場を創り続ける使命があると谈及しています。

日本YMCA同盟の動き

メッセージの発信と募金の開始 (2022年3月2日)

世界YMCA同盟及びヨーロッパYMCA同盟からのメッセージと支援の呼びかけに呼応して、日本YMCA同盟よりメッセージを発信、ヨーロッパYMCA同盟に1万ユーロ(約129万円)を送金しました。

同時に緊急支援募金を開始。募金は、本国や近隣諸国に避難する人びとの生活支援、日本への避難者とそのご家族等へのトータルなサポートに用いられています。

共同の祈り (2022年3月8日)

人権と命が脅かされ、恐怖と不安のただ中にある、ウクライナとミャンマーの人びとのことを覚え、現状に耳を傾け、日本基督教団高槻日吉台教会吉岡恵生牧師のメッセージと共に祈りのときを持ちました。

ウクライナからの避難者受け入れ

2022年3月初旬、日本YMCA同盟に日本で暮らすウクライナ人から老親を呼び寄せたいとの相談があり、現地のYMCAと緊密な連携を図り、移動や手続きの支援を行いました。3月18日に無事、日本で再会することが叶い、このことがニュースで取り上げられると、国内外から避難者受け入れ支援に関する相談や依頼が相次ぎました。特に経済的に呼び寄せることが困難な留学生や低所得の家族、日本に避難したくても身寄りのない人たちからの相談が多く、切実です。現地のYMCA担当者とチームで密なコミュニケーションを取りながら、ウクライナからの第三国への避難や滞在、ビザ取得、渡航など、避難者と日本での受け入れ家族を物心両面にわたりサポートしています。



日本YMCA同盟からのメッセージ (2022年3月2日)

日本のYMCAは、第二次世界大戦における歴史的責任を認識し、『日本YMCA基本原則』において世界の人びとと共に平和の実現に努めることを誓っています。

今回の、ロシアによるウクライナ侵攻について、軍事侵攻に反対し、国際的な意見の相違があっても戦争が解決策になることはなく、対話と協力による外交的な解決策が見つかり、武力紛争が一刻も早く終結することを強く願います。

戦争は、日常生活を営む街を一瞬にして破壊し、両国の軍人が、命を奪い合い、ウクライナでは子どもを含めた多くの市民が人権と命の尊厳が奪われます。戦争が続けば、さらに多くの血が流れ、無^む辜^この命が奪われます。その家族や友人、知人、そして私たちの悲しみの涙は、何万倍となります。今、このひと時も恐怖と不安の中にあるウクライナの人びとを想います。

ウクライナYMCAは古くは第一次世界大戦下から戦争下で苦しむ若者のために活動を始め、その後も共産党組織支配下においては水面下で、独立後は長く民族紛争、貧困に苦しむ若者・子どものための活動をウクライナ全土25カ所で展開しています。ウクライナYMCA、ロシアYMCAともに、複雑な歴史を辿りながらヨーロッパYMCA同盟に加盟し、連なっています。平和と公正を求め、人権と民主主義にもとづいた対話による平和構築、若者の就業・メンタルヘルスについて若者自身が中心となって課題解決に望むYouth Led Solutionに注力しています。

今回の侵攻直後から、ウクライナYMCAでは爆撃地か

軍事侵攻に反対し、平和を求める人びとと連帯します

ら逃れる人びとのための宿泊・食料・衣料品・衛生用品の提供を開始し、今後は子どもや若者の心理社会的支援を行っていきます。ウクライナ近隣諸国のYMCAでは連携を取り、24時間体制で避難民の受け入れ、生活支援が行われています。ロシア国内でも戦争反対のデモが行われていますが、現在の政治体制下では大きな力を持つことは難しい状況ですが、世界のYMCAでは平和を希求するすべての人びとと連帯していきます。日本のYMCAでは速やかに募金活動を呼びかけ、これらの活動を支援してまいります。

世界、アジアにおいて人権や民主主義が脅かされることがないように、無力でも平和を求め祈り、日頃からの平和への希求の意思として武力による平和は無いこと、戦争反対の声を掲げ、平和を求める人との連帯の意思や行動を示していければと思います。

また、ウクライナやロシアと関係の深い日本国内の人びと、YMCAでも留学生をはじめ、会員及びご家族が大きな影響を受ける可能性があります。関係の方々へのサポート等、必要な対応を行い、偏見や差別を生まないよう努めます。



戦禍を逃れ日本に暮らす娘と再会

■ウクライナ侵攻に関連する動き

2022年2月21日	ロシアがウクライナ東部に軍を派遣
2月23日	▽世界YMCA同盟・ヨーロッパYMCA同盟からの共同声明
2月24日	▽世界YMCA同盟総主事からメッセージ発信
2月25日	ロシアによるウクライナへの侵攻が始まる
2月26日	▽東京YMCAにウクライナYMCA総主事からメッセージ
3月 2日	▽日本YMCA同盟からメッセージを発信—募金の呼びかけ
3月 8日	▽「共同の祈り」開催
3月18日	▽日本とヨーロッパのYMCAが連携して相談のあったウクライナからの避難者が日本へ到着以降、相談が相次ぎ来日と来日後の生活支援を継続

▽はYMCAの活動



寄附・支援

ポジティブネットYMCA国際協力募金

子どもとユースが、差別や争いのない社会で夢や希望を持ち、どこに暮らしても安心して学び、遊べることを願い、全国で募金活動を行いました。全国のYMCAで使用するリーフレットやポスターを作成し、私たち一人ひとりが変化の担い手として、考え、行動につながられるよう働きかけました。募金は国内外での活動に活かされました。

(円)	
収 入	
前年度繰越	3,200,036
2021年度国際協力募金	4,650,946
2021年度ツール分担金	115,863
収入合計	7,966,845
支 出	
難民支援(パレスチナ)	1,000,000
青少年育成・貧困者支援(アジア地域のYMCAを通して)	869,475
啓発・広報事業(リーフレット、ポスター作成)	1,673,605
事務費(送金手数料等)	4,838
支出合計	3,547,918
次期繰越	4,418,927

*上記は日本YMCA同盟を通じた支援活動の収支報告です。

*全国のYMCAには総額45,583,005円が寄せられ、地域で役立てられています。

上記の他、国際協力資金より、各地の災害及びミャンマー政変に対し18,000ドル、ウクライナの危機に対し1万ユーロを送金しました。



全国で掲示されたポスター

海外被災地・政変等支援(指定募金)

2021年2月に起きた軍事クーデターにより、ミャンマー市民が攻撃を受け拘束される事態となりました。いのちが脅かされる中、現地YMCAも市民と共に立ち上がり、厳しい状況の中でもYMCAの活動を止めずユースの育成や人が人のサポートなどを行いました。これに対し2021年3月から募金を呼びかけ全国から協力を得ました。また今も抑圧を受けるパレスチナで行われている「オリーブの木キャンペーン」(オリーブの栽培によってパレスチナの人びとの生活を支える)と、難民支援のために寄せられた寄附を送金しました。2月下旬のロシアの侵攻によるウクライナ危機に際しては避難者の支援活動がYMCAのネットワークを通して行われ、全国にも募金を呼びかけ、現地での支援サポートと共に日本への避難者支援を開始しました。

(円)	
収 入	
前年度繰越	3,044,891
募金収入*	3,526,881
収入合計	6,571,772
支 出	
パレスチナ難民支援	104,500
オリーブの木キャンペーン	127,000
ネパール震災被災地支援	1,773,987
ウクライナ避難者支援	184,448
支出合計	2,189,935
次期繰越	4,381,837
(内訳)	
フィリピン台風被災地支援	528,852
ミャンマー支援募金	732,052
ウクライナ緊急支援	3,120,933

*上記は2022年3月31日までに入金があった分を記載しています。(クレジットカード決済は翌月の入金になります。)



オリーブの木キャンペーンで贈られたオリーブの苗木を植える(パレスチナ)

寄附・支援

国際賛助室(チャリティーランと障がい児支援)

障がい児プログラム支援のためのYMCA国際チャリティーランは、前年度に引き続き、各YMCAが知恵を絞り、オンライン開催や、集合形式の大会では、一斉スタートではなく、受付順にスタートする等、万全な感染防止策を取りながら開催しました。その結果開催できたYMCAの数は前年度より多い17カ所となり、ランナー、ボランティア・スタッフ、観客をあわせて総勢約5,000名が参加しました。コロナ感染以前の参加者数にはまだ及びませんが、着実に参加者が戻ってきています。引き続き知恵を出し合い、工夫をしながら支援の輪を広げていきます。

2021年度のチャリティーラン開催により、全国のYMCAで実施される特別支援プログラムへの支援金は約1,710万円となりました。この支援金はおよそ130のプログラム、2,800名の子どもたちの体験活動に活用されます。

(円)

収 入	
前年度繰越	11,081,139
寄附金収入	7,135,092
国際チャリティーラン2020	197,811
国際チャリティーラン2021	3,046,677
助成金	300,000
CCP中止分戻り	795,426
利息収入	101
収入合計	22,556,246
支 出	
全国YMCA障がい児プログラムへ	6,351,890
国際チャリティーラン経費	2,395,626
国際チャリティーラン協賛金	3,224,312
その他経費	312,448
事務手数料として	1,277,600
支出合計	13,561,876
次期繰越	8,994,370

*全国に寄せられた約1,710万円の支援金の一部は日本YMCA同盟に集められ、次年度の特別支援プログラムに用いられます。



2年ぶりに参加者の笑顔と活気があふれた大会(左上/神戸YMCA 左下/茨城YMCA 右/奈良YMCA)

ワイズメンズクラブ国際協会

国際的社會奉仕団体であるワイズメンズクラブはYMCAと共に歩みを続けています。東日本区・西日本区を合わせて140クラブ、約2,200名が各地域における社会課題に対して活動し、困難の時代にあっても、つながりを大切にしながら新しいクラブの創設やさまざまな工夫、チャレンジを継続されています。今後もYMCAのパートナーとして歩みが止まることはありません。2021年度、新型コロナウイルスの影響が続く中であっても、YMCA子ども・ユース・地域支援、ポジティブネット募金や全国YMCAの各イベントや研修会に多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

(円)	
収入	
ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区	1,000,000
ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区	1,000,000
収入合計	2,000,000
支出	
第52回全国YMCAリーダー研修会	500,000
学生YMCA夏期ゼミナール	500,000
全国YMCAオンライン研修(全10回)	500,000
日韓学生YMCA交流会	250,000
ユースチャレンジ2021	250,000
支出合計	2,000,000



ワイズメンズクラブよりご支援をいただいている全国YMCAリーダー研修会

日本宝くじ協会

一般財団法人日本宝くじ協会から総額550万円の助成を受け、集会用テントを17YMCAに37張、宿泊用テントを14YMCAに20張、合計57張が新たに全国のYMCAに備えられました。新型コロナウイルスの影響が続く1年でしたが、感染予防対策の学びと工夫により、テントを用いたさまざまなイベントが催されました。密を避けた屋外イベントには欠かせない集会用テントは、昨年を上回る13,000人以上に利用されました。宿泊用テントは、家族キャンプなど少人数グループを対象にしたプログラムに活用され、安心と安全の中で交流や自然体験の機会を提供しました。

(円)	
収入	
助成金収入(本体事業費)	5,000,000
助成金収入(消費税分)	500,000
自己財源収入(分担金等)	730,400
収入合計	6,230,400
支出	
集会用テント 37張	3,904,000
宿泊用テント 20張	1,760,000
消費税	566,400
支出合計	6,230,400



「青少年デイキャンプ」で活用されたテント(姫路YMCA)

YMCAユースファンド

「YMCA地球市民育成プロジェクト」を通してのユース育成はここ2年間は休止しています。ユース育成をお支えくださる支援が活かせるよう今後のユースの育成のあり様を検討して参ります。

日本YMCA同盟委員会報告

委員任期：2020年7月～2022年6月 ◎は長を示します

1. 理事会・評議員会・常議員会・協議会

法人理事会

▼第355回(2021年5月15日) オンライン会議

2020年度日本YMCA同盟事業報告と決算報告がなされ、2021年度からスタートする日本YMCA中期計画について文言を含め最終確認をしました。また日本YMCA同盟事業報告書の別冊として『コロナ危機と未来への選択』の発行報告がありました。

▼第356回(2021年9月25日) オンライン会議

日本YMCA同盟第1次修正予算および四半期財務報告と承認のほか、日本YMCA中期計画推進委員会設置等の推進体制を協議しました。

▼第357回(2021年10月16日) オンライン会議

公益財団法人一橋キリスト教青年会土地登記変更の件について、所有権移転登記手続きを行うことを承認しました。

▼第358回(2022年1月22日) オンライン会議

2022年度日本YMCA同盟方針・計画・骨子の件、同盟予算編成方針の件ほか、同盟次期役員候補者選考委員会について協議しました。

▼第359回(2022年3月5日) オンライン会議

2022年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件と同盟予算案の件ほか同盟人事体制の件について協議し、承認しました。

▼第360回(2022年3月19日) オンライン会議

第11回(2022年度)同盟協議会の件ほか次期同盟役員候補者推薦の件と同盟就業規則の育児休業規程および介護休業規程の改定の件を協議し、承認しました。

理事(7名)

水田秀子、仲井間健太、中道基夫、塩澤達俊、田口努(代表理事)、横山由利亜(執行理事)、森田義彦(執行理事)

監事(2名)

平野昭宏、齋藤宙也

法人評議員会

▼第27回通常評議員会(2021年6月19日) オンライン会議

2020年度日本YMCA同盟事業報告と決算報告がなされ、承認しました。

▼第28回評議員会(2022年3月19日) オンライン会議

2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画、予算について説明があり、承認しました。

評議員(13名)

◎川本龍資、竹佐古真希、井上真二、青山鉄兵、利根川恵子、上田晶平、田中博之、岩坂二規、山本知恵、廣瀬頼子、山本俊正、奇恵英、藤本義隆

同盟常議員会

▼第374回(2021年5月15日) オンライン会議

2020年度日本YMCA同盟事業報告と決算報告がなされ、2021年度からスタートする日本YMCA中期計画について文言を含め最終確認をしました。また日本YMCA同盟事業報告書の別冊として『コロナ危機と未来への選択』の発行報告がありました。

▼第375回(2021年6月13日) オンライン会議

第10回日本YMCA同盟協議会議案に関する大阪YMCAからの意見提示について協議しました。

▼第376回(2021年10月16日) オンライン会議

第10回日本YMCA同盟協議会議事録について確認がされ、日本YMCA同盟第一次修正予算および四半期財務報告を承認しました。

▼第377回(2022年1月22日) オンライン会議

2022年度日本YMCA同盟方針・計画・骨子の件と予算編成方針が協議され、次年度を迎えるベースとなる体制を承認しました。

▼第378回(2022年3月19日) オンライン会議

2022年度日本YMCA同盟方針・計画の件と予算案の件、および、2022年度の新しい日本YMCA同盟組織体制について説明があり、承認しました。

常議員(23名)

◎川本龍資、竹佐古真希、井上真二、青山鉄兵、水田秀子、仲井間健太、中道基夫、利根川恵子、上田晶平、田中博之、岩坂二規、山本知恵、廣瀬頼子、山本俊正、奇恵英、藤本義隆、村田堅太郎、岡戸良子、廣田康人、杉田孝、塩澤達俊、太田直宏、田口努

同盟協議会

▼2021年6月19日 電磁的評決およびオンライン会議

第1号議案 2020年度日本YMCA同盟事業報告の件
2020年度決算報告の件（退職金中央基金・職員年金・職員
互助会報告含む）

第2号議案 日本YMCA中期計画（2021-2023）の件

第3号議案 2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画の
件および2021年度予算の件

主事認定証授与式

グループディスカッション

テーマ：「いまこそ、ポジティブネット 未来に向けて“私た
ちのアクション”」

派遣の礼拝

メッセージ：吉岡恵生牧師（日本基督教団 高槻日吉台
教会）「埋もれた光を探しに行こう」

2. 運営委員会

YMCA東山荘運営委員会

開催日：2021年7月3日、11月27日

新型コロナの影響により、宿泊利用者が減少する中、
YMCA東山荘の進むべき道に関して協議しました。日本の
YMCA全体のシンボリックな施設であると同時に、100余年
存続してきた施設としての使命を再確認しながら、新しい
YMCA東山荘の在り方、新たな可能性について意見交換を行
いました。地域に生かされ地域と共に歩む活動の重要性に
ついてあらためて話し合ったほか、ローカルYMCAの事例も
参考に取り組めることはないかなど、活発な意見交換が行わ
れました。

委員（5名）

◎村田堅太郎、野々垣健五、田原績、伊藤幾夫、筒井佳代子

退職金中央基金・職員年金基金運営委員会

開催日：2021年5月13日、9月13日、
2022年1月17日、3月11日

全国のYMCAの退職金制度を維持し、退職職員への年金
の安定支給のため資金運用状況の確認、制度の検討を行っ
てきました。2021年度は、資金管理システムを本格的にクラ
ウドを用いた新システムに移行しました。

委員（6名）

◎田中博之、高田一彦、上田晶平、浜野昌保、堀尾仁、
田口努

退職金中央基金・職員年金資金運用委員会（5名）

◎田中博之、徳久俊彦、勝田正佳、久保田貞視、齋藤金義

日本YMCA同盟委員会報告

3. 常置委員会

学生部委員会

開催日：2021年7月31日、2022年2月6日

第126回委員会では、毎年5月～6月に実施する現況調査アンケートと各地区共働スタッフからの報告をもとに全国学生YMCA感染症対策、オンラインでの活動状況、夏期ゼミナールの準備状況について協議しました。

第127回委員会では、各地区ごとの報告に加え、9月に実施した夏期ゼミナール、11月に実施した全国学生YMCAリユニオンの報告がなされ、次年度の夏期ゼミナールでは対面での実施を目指していくことが確認されました。

合わせて、コロナ禍での学生生活しか知らない学年が現役学生を中心に占めるようになっており、学生たちの体験と学びの機会を確保するため、学生部委員会と学生YMCA事務局が果たすべき役割がますます大きくなっていることが確認されました。

委員（6名）

◎竹佐古真希、板野靖雄、秋葉聡志、中島敬之、村瀬義史、黄崇子

国内協力委員会

開催日：2021年7月29日

コロナ禍における全国YMCAの運営状況を共有して、全国YMCA総主事会議の下に設置された経営再建サポートチームとの連携を強化しました。困難な中にあるYMCAの状況について、その対応策やサポート方法、専門家による視点も加えながら積極的な意見交換が行われました。

委員（7名）

◎利根川恵子、鷹箸孝、川本龍資、廣田康人、菅谷淳、井上真二、福山武志

国際協力委員会

開催日：2021年4月9日、5月30日

世界YMCA同盟、アジア・太平洋YMCA同盟からの情報を得ながら、ミャンマーのクーデターによるミャンマーYMCA緊急支援募金、東ティモールでの豪雨災害への支援を決定しました。また、ネパール地震被災地支援募金として集められた募金の支援先を、ネパールのナショナル・イノベーション・センター（NIC）が実施するSmart Villageプロジェクトとすることを決議しました。

委員（5名）

◎岡戸良子、長尾ひろみ、太田直宏、神保勝己、松田道子

加盟退除・組織検討委員会

開催日：2021年10月5日、11月12日、12月20日

公益法人移行後の加盟YMCA会則整備（会員組織・任意団体・キリスト者条項の整備）を目指して、提出された会則改定案の点検と承認を行いました。

2021年度は、京都YMCA、滋賀YMCAの会則変更の承認を行いました。また、課題となる項目を抽出し検討することになりました。

委員（4名）

◎塩澤達俊、笈川光郎、古田和彦、小川健一郎

研究所委員会

開催日：2021年5月19日、2022年3月24日

変化し続ける現代社会におけるYMCAのスタッフ像を明らかにし、社会課題に素早く、適切に対応でき、日本のYMCA運動をリードできる力が備わっているスタッフ養成の実現のために、研究所主催研修の内容や、オンラインを用いた研修のさらなる充実、社会に発信できる成果物としての論文やレポートの質の高め方を中心に協議を重ねました。

委員（5名）

◎山本俊正、秋元みどり、廣田光司、田附和久、杉村徹

4. 特別委員会

主事資格認定委員会

開催日：2021年5月7日

日本YMCA主事資格の認定を行うための口頭試問と総合審査を行いました。

委員（5名）

◎廣田光司、秋葉聡志、佐竹博、加藤俊明、鍛治田千文

主事論文審査委員（10名）

松岡信之、湯本浩之、青山鉄兵、秋元みどり、村田堅太郎、濱塚有史、齊藤希世、露木淳司、上村香野子、加志勉

日本YMCA中期計画推進委員会

開催日：2021年9月15日 ＊プレ推進委員会として

日本YMCA中期計画推進委員会設置と合わせて、推進にあたっての課題と方策を整理し、そのための仕組みづくりについて協議しました。

開催日：2021年12月24日

本委員会が中期計画推進について全国YMCAを俯瞰し、社会の変化に則して循環を生み出し、世界YMCA同盟VISION2030も捉えながら、連帯し応答をしていくことを確認しました。

委員（5名）

◎中道基夫、山田公平、大森佐和、仲井間健太、菅谷淳

5. 定例委員会

ユース委員会

開催日：2021年9月10日、2022年3月9日

前年に続き、ユースへの助成金事業として「全国YMCAユースチャレンジ2021」を6月と11月に募集し、審査を経て5YMCAの事業に対して総額376,000円の助成を実施しました。助成を受けたそれぞれのユース団体の活動報告は、オンラインによるプレゼンテーションで共有されました。

委員（5名）

◎藤本義隆、廣瀬頼子、仲井間健太、荒井浩元、濱塚有史

ジェンダー委員会

開催日：2021年4月26日、2022年1月26日

本委員会の呼びかけでYMCAスタッフでジェンダー懇談会を開催しました。全国YMCAより女性スタッフが集まり、YMCAや地域社会など身近な場で起きている出来事をジェンダーの視点で見つめ直し、仕事と家庭の両立、コロナ禍での女性への負担、YMCAでのジェンダーギャップなどについて意見交換をしました。アジア・太平洋YMCA同盟ジェンダー委員会による、アジア・太平洋地域におけるジェンダーに関する意識調査に対しては、全国YMCAの関係者約150名の方に協力していただきました。

委員（2名）

◎岡戸良子、鍛治田千文

全国YMCA総主事会議関連報告

全国YMCA総主事会議

会長：井上真二 副会長：塩澤達俊、殿納隆義
開催日：2021年5月14日、7月9日、10月8日、12月10日、
2022年2月15日～16日

すべてオンラインによる開催として、直面する課題に取り組む道筋を明確にするために規模別・地区別の情報交換、意見交換を活発に行いました。また経営指標に基づき、困難にあるYMCAとともに中期財政再建計画を策定する経営タスクを設置し情報共有とサポート体制の構築を進めました。増加する行政等からの事業委託や指定管理などの取得に向けて新たに公益協働事業担当者を設置し、そのノウハウや経験値を活かすことのできる有益な事案への対応やガイドラインの整備を進めました。これまで取組んできたブランディングと新たにスタートした日本YMCA中期計画（ビジョン）を各YMCAの事業に展開するための議論を深め、急速な社会の変化の中でポジティブネットのある豊かな社会を創造することを目指し、協議を重ねました。

全国YMCA戦略会議

開催日：2021年4月23日、6月25日、9月24日、11月26日、
2022年1月28日、3月25日

6大規模YMCA及び2中小規模YMCAから構成される戦略会議では、オールジャパンYMCAの計画である新たな日本YMCA中期計画の取組みや新型コロナの影響により、困難な状況となった事業の再生に向けた対応を強化し積極的な全国協働を牽引しました。

オンラインによる会議体を活性化させ、地区別総主事会議との連携を強化することにも努めました。長期化する困難に向き合いつつ連帯を強め、リカバリーに向けた地盤を固める1年となりました。

全国担当者会

■子育て子育て事業推進会議

強化責任者兼会長：宮田康男
副会長：山中奈子、小澤昌甲

教育・保育事業部会

部長：井上孝一 担当総主事：中村隆

アフタースクール事業部会

部長：加川貴俊 担当総主事：宮田康男

発達支援事業部会

部長：太田聡 担当総主事：小谷全人

教育・保育、アフタースクール、発達支援の事業部からなる子育て子育て事業は、社会基盤を支える事業として、感染対策に十分に留意しつつ、事業を継続してきました。2021年度は①全国交流と情報交換の強化②YMCA伴走サポートの更なる展開③行政・企業・団体との連携強化の3点に重点を置き、中長期的には教育・保育、アフタースクール、発達支援の一体運営、すべての子どもの成長・発達を支援する包括的な事業展開を目指すこととして、事業推進を図りました。

教育・保育事業は、全国70拠点に約6,500名が在籍しています。コロナ禍における重要な社会的役割を認識しつつ、「はなれていてもつながっているYMCA」として、オンラインでの意見交換会、及び研修会を続けてきました。3月には運営責任者を対象とした拡大役員会を開催し、ニュースタンダードの社会で求められるYMCAとしての方向性を共有しました。

アフタースクール事業は、全国62拠点にて約6,000名が在籍しています。エッセンシャルワーカーとして社会的重要性の高さが注目されたこともあり、コロナ禍にあっても事業規模は拡大しています。YMCA伴走サポートの導入も進み、15YMCAで2,800名に伴走し、エピソードは15,000件に上ります。また全国のアフタースクールに通う子どもたちがピンクシャツデーの取り組みの一環として、いじめを考える子どもかいぎ「一人ひとりをたいせつに」を実施し、26YMCAから79名の子どもたちが参加し、いじめについて自身の言葉で考え、話し合いました。

発達支援事業は、全国30拠点で児童発達支援事業と放課後等デイサービスを中心に多彩なプログラムを展開し、約1,000名が在籍しています。オンラインを用いた全国交流や研修を積極的に行い、7月には神奈川県立保健福祉大学の笹田哲教授やノンフィクションライター渡辺一史氏を招いた特別講演、12月には大阪総合教育支援研究所の原田孝氏を招いた保護者面談研修、2月にはピンクシャツデーに合わせ、神戸フリースクールの田辺克之氏を招いた講演会を行いました。また全国の事業所の課題の掘り起こし相談を受け付ける「巡回訪問」を予算化し、全国協働を進めました。

■学校事業部門

強化責任者：菅谷淳

会長：小畑貴裕 副会長：田附和久

日本語事業部会

担当総主事：福山武志

専門学校部会

担当総主事：神保勝己 *8月逝去 後任は殿納隆義

ウイズコロナの時代にも変わらずにユースを育て、グローバルな人材を社会に輩出できるよう、全国で協働しながら募集を強化したほか、感染対策に関する情報共有や講師の研修など、ネットワークを活かした取り組みを行いました。

日本語事業は現在、全国12のYMCAに計17校あり、約1,600名の留学生が日本語を学んでいます。2021年度も留学生の入学制限が続き学生数は低迷が続きましたが、担当者会ではビザの交付状況や入国情報を共有して対策を講じたほか、台湾と共同での学生募集や日本語教師のためのオンライン講座なども行いました。

専門学校は、全国12のYMCAに医療、福祉、保育、スポーツ、ホテル、製菓、語学、ビジネス、建築分野の学校があり、約2,300名の学生が在籍しています。7月、9月、11月の担当者会のほか分野別分科会を行って、全国のスケールを活かした協働広報に取り組んだほか、実習前のPCR検査などコロナ対応や助成金情報など、学校運営に必要な情報を共有しました。2月には「全国協働に向けたプレーンストーミング」を実施。ステップII研修に参加した若手スタッフの意見を聞いて、新しい広報の在り方について自由な協議のときも持ちました。

■高齢者部門

強化責任者：塩澤達俊 部長：瀬谷智明

高齢者部門は、全国7YMCA、約40拠点で特別養護老人ホーム、通所介護施設等を運営し、高齢者とその家族が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、多様なニーズに合わせて福祉サービスを提供しています。高齢化社会に対応し、すべての人が年齢を重ねてもその人らしく生きられるよう、介護予防や認知症予防の取り組みも、ウエルネス事業と連携して進めています。6月には日本キリスト教社会福祉学会大会に参加し、今の社会福祉を取り巻く現状について見聞を広める機会を作りました。

■ウエルネス事業部門

会長：宇楚充洋 担当総主事：小川健一郎、大塚永幸

ウエルネス事業は、アクアティック、ジムナスティック、サッカー、野外、野外施設、バスケットボールの事業部で構成され、全国27YMCAに約28,000名の会員が在籍しています。いまだ新型コロナの影響は色濃く残っているものの、適切な感染予防やオンライン活用など工夫を凝らしながら、社会を取り巻く閉塞感を打破し、子どもたちの健やかな成長を願うさまざまなプログラムを展開しました。8月の全国YMCA少年少女水泳大会は、対面開催の上、ライブ配信を行い、123名が出場しました。これに加え、10月から12月の期間中、各YMCAでの記録を集計して行う、全国YMCA通信制水泳大会を開催しました。例年の大会ではなかなか集まりにくい地域からの参加もでき、9YMCAから330名が参加しました。また、前年に引き続き、活動の機会が失われている子どもたちや家族の体力向上、健康維持のために、1月から3月には体力向上キャンペーンをYouTubeやInstagramなどを活用して行いました。1月には研修会を開催し、関西医科大学の柳本嘉時氏を招いて基調講演を行いました。「自己肯定感の大切さ」と題し、起立性調整障害(OD)と運動について、学ぶ機会を作りました。野外施設事業部では、近年盛り上がりを見せている家族・ソロキャンプブームに合わせて、感染予防を講じつつ自然体験が行える小グループの受け入れを積極的に進めました。



笑顔の表彰式、第45回全国YMCA少年少女水泳大会

全国YMCA総主事会議関連報告

■マネジメント部門

総務担当者会

会長：山添仰 担当総主事：秋葉聡志、佐竹博

ICT担当者会

会長：加藤雄一 担当総主事：村上祐介

公益協働担当者会

会長：波多啓造 担当総主事：井上真二、塩澤達俊

ICTが組織の力を強めるためのツールとしてますます活用されるようになり、ICTと経営はより密接になりました。総務とICTの両担当者会をマネジメント部門として再編成し、課題解決の力とスピードを高めることを目指しました。

総務担当者会では、「健康経営と働き方改革」、「業務の効率化とテクノロジー活用」、「公益協働担当者会との連携」を2021年度のテーマとしてオンラインで全国YMCA総務担当者会を全4回開催しました。「健康経営とは」（7月7日・45名）、「社会保険適用の拡大」と「改正育児・介護休業法について」（9月16日・43名）、「YMCAの行政協働事業」（11月29日・37名）、「労務管理について」（2月7日・35名）を全国での取り組みの事例の共有や、専門家からの学び、グループディスカッションなどの内容で行いました。また、業務の効率化とテクノロジーについて各YMCAの労務関連の電子申請の調査を実施、情報交換を行いました。

ICT担当者会は、10月11日と2月3日にオンラインで開催し、それぞれ全国から25名、36名が出席、予約受付システム（e-YMCA）に関する現状の確認と次期予約管理システムの有力な候補である熊本YMCAの新・管理システムについての説明が内容の中心となりました。役員会では月に1回の会議を開催し、e-YMCAシステムに代わる新システムへの移行をどのように進めていくかという課題を中心に協議・検討を継続しました。

これまではタスクとして位置づけられていた公益協働事業担当者会は2021年度より担当者会として発足しました。YMCAが指定管理に取り組む意義を明確にし、メリットをどう創出するかのガイドラインを作成し、3月に各YMCAに配布しました。また、2月5日に全国の担当者会を開催し、発題のち、解決したい課題と担当者会の役割についてグループディスカッションを行いました。

■英語・国際事業部門

英語教育担当者会

会長：青柳真理子 担当総主事：太田直宏

国際事業担当者会

担当総主事：太田直宏

英語教育事業と国際事業の担当者会は、英語・国際事業部門として再編成され2年目を迎えました。英語教育によるコミュニケーション力の養成、国際事業による国を越えた多様性を知り受け入れる体験、両事業の融合によって共に生きる社会の実現を広く推し進めていきます。

英語教育は、全国24YMCA、49拠点にて実施され、約5,000名が在籍しています。オンラインで実施した全国英語教育担当者会は6月に27名、11月に26名が参加しウィズコロナ時代の英語教育や講師の育成などをテーマに事例発表や意見交換などが活発に行われました。中高生を対象としたイングリッシュキャンプは2021年12月26～28日にオンラインで開催し11名が参加しました。

国際事業部門では、担当者会（2022年3月8日、オンライン、25名出席）を2部形式で行いました。第1部では、地域に根ざした各YMCAでの活動報告として、茨城YMCA、京都YMCA、大阪YMCAの事例を共有しました。そしてアジア・太平洋YMCA同盟総主事Nam Boo Won氏をリアルタイムでオンラインでつなぎ、アジア太平洋地域のYMCA運動や、日本のYMCAの貢献、日本のYMCAの国際担当スタッフへの期待について話していただきました。第2部は「共同の祈り」とし、横浜YMCAよりミャンマーの支援活動、東京YMCAよりウクライナYMCAからの現状を紹介していただいたあと、日本基督教団高槻日吉台教会の吉岡恵生牧師をお迎えし、ミャンマーとウクライナの仲間のことを覚え祈りを捧げました。

ピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ピンクシャツデー 2022キャンペーンでは、子ども社会のいじめのみならず、SNS等のインターネットの世界で起こるいじめ、誹謗中傷にも目を向けて運動を展開しました。発達支援事業役員会と日本YMCA研究所が共催した講演会では神戸フリースクール代表の田辺克之さんを講師にお迎えし「ネット社会を生きる子どもたち～フリースクールの子もたちとの出会いを通して～」が行われ、全国YMCAのスタッフ、リーダーに加え、役員やワイズメン、110名が参加しました。今の社会で困難さを抱えている子どもたちにとって、私たち大人が大切にすべき想いや関わりを一緒に考える時間となりました。また全国13YMCA、25のアフタースクールの子もたちがオンラインで集まり、いじめを考える子どもかいぎ「一人ひとりをたいせつに」が行われました。参加した子どもたちは、緊張しながらも、それぞれのピンクシャツデーの取り組みや、いじめに対する考えを発表しました。改めて“いじめ”について深く考え、全国YMCAのつながりを感じられる機会となりました。



全国25のアフタースクールから参加した「いじめを考える子どもかいぎ」

ウォーターセーフティーキャンペーン

「ウォーターセーフティーキャンペーン」は全国YMCAアクアテック事業部会が中心となり例年6～9月までの期間で実施しています。2020年度は、新型コロナのため中止を余儀なくされましたが、2021年度は対策を講じながら再開しました。生命とはすべてに優先するかけがえのない大切な贈物です。このかけがえのない生命を守り育てることが目的です。YMCAウォーターセーフティーハンドブックの無料配布(約10万部)や水難事故から身を守るための着衣泳講習会(8,500名)、AEDなどを用いた一次救命処置講習会(約500名)などを展開しました。また、地域の学校などにスタッフを派遣し泳法指導、安全教育など約2,500名の児童に行いました。これからも自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に作る取り組みを全国YMCAで推進していきます。



着衣水泳の様子「もしもの時は浮いて待つ」(東京YMCA)

現勢(全国・世界) (2022年3月末現在)

組織

世界の国・地域	120	(2021年3月末現在)
国内		
都市YMCA(加盟・準加盟)	34	(同盟含む)
・公益財団法人	24	
・一般財団法人	7	
・学校法人	14	
・社会福祉法人	11	
・NPO法人	7	
・営利法人	5	
・任意団体	2	
学生YMCA	37	
・寮学生YMCA	10	
・サークルYMCA	17	
・設立準備中/連絡YWCA	10	
うち公益財団法人	3	
一般財団法人	1	
全国の活動拠点(延べ)	430	

メンバー

世界で運動に関わる人の数	6,500万人
国内の年間登録者の数	6万9千人

ボランティア

総会構成員	6,000人*
ポリシーボランティア	1,650人*
ユースボランティア	2,200人*
認証ユースボランティア	累計17,987人

※ユースボランティアとは：野外・ウエルネス・障がい児プログラム・国際などの分野で子どもたちに寄り添い、成長を支えるボランティアです。

*(2021年8月末現在)

関係団体

ワイズメンズクラブ国際協会

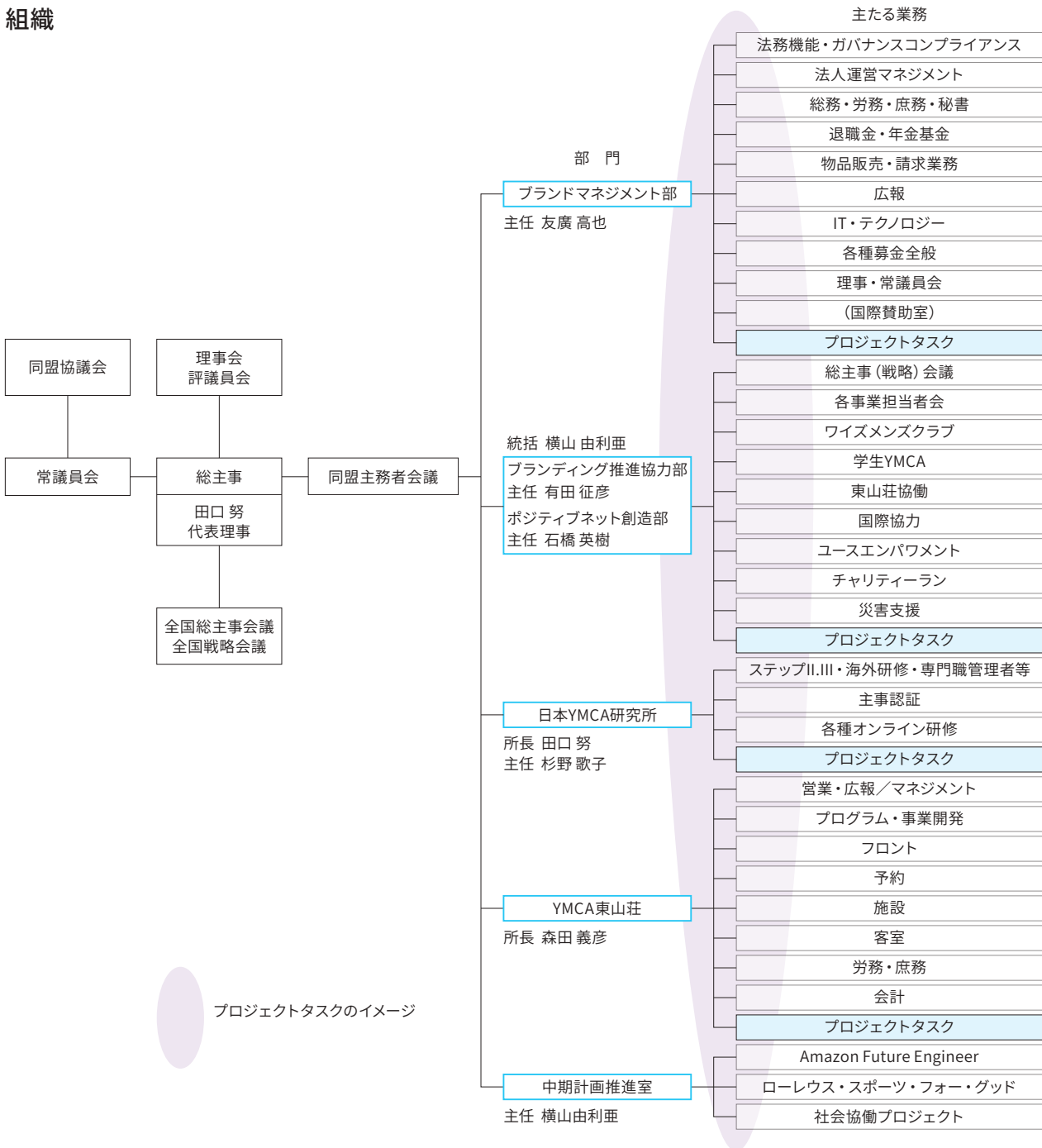
・東日本区 ・西日本区

関係・友好諸団体

- ・世界YMCA同盟
- ・アジア・太平洋YMCA同盟
- ・世界学生キリスト教連盟
- ・日本キリスト教協議会
- ・公益財団法人 日本YWCA
- ・公益財団法人 日本レクリエーション協会
- ・公益財団法人 日本キャンプ協会
- ・公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟
- ・公益社団法人 ガールスカウト日本連盟
- ・公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
- ・公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS)
- ・認定NPO法人 開発教育協会 (DEAR)
- ・認定NPO法人 日本NPOセンター
- ・認定NPO法人 国際協力NGOセンター (JANIC)
- ・一般社団法人 協力隊を育てる会
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- ・「広がれボランティアの輪」連絡会議
- ・認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)
- ・ECPAT/ストップ子ども買春の会
- ・広げよう!子どもの権利条約キャンペーン
- ・教育協力NGOネットワーク (JNNE)
- ・JYPS (Japan Youth Platform for Sustainability)
- ・ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団

2021年度日本YMCA同盟 組織・職員

組織



	主務者	職員	嘱託・パート・インターン
四谷	田口努 横山由利亜 友廣高也 有田征彦 石橋英樹	波多尚子 山田紀久美 市来小百合 平田真姫 石川晴美	小野寺みさき 久保彩奈 岡美礼 伊賀水美 松永幸樹
東山荘	森田義彦 杉野歌子	沼田光隆 横山明子 盛岡美貴 白鳥裕之 滝口敦子 遠藤舞 芹澤多賀子 山田仁 野木千賀世	阪田祥章 小林加奈 藤澤幸伸 芹澤正 小倉正人 杉山翔 内海信吾 鈴木正敏 杉山菜津美 加藤由香里 羽鳥喜和子 小野隆義

出向(千葉) 真鍋泉 協力 光永尚生(熊本)

2022年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

日本YMCA中期計画・基本聖句

「光は暗闇の中で輝いている」

(ヨハネによる福音書1章5節)

日本YMCA中期計画の基本聖句「光は暗闇の中で輝いている」は、世界同時パンデミック、コロナ禍において、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を目指すYMCAの姿を現している。産業革命時代、困難の中にあつた青年たちが、共に祈り、人間性の回復を目指してYMCAを創立した。その希望の光は、瞬間に世界中のユース・エンパワーメント運動を結集した。困難な状況において、他者や社会とつながり、隣人に仕えることによって、神から与えられた賜物は輝き、希望の光となる。日本YMCA中期計画では、それを“Positive well-being” (ポジティブ・ウエルビーイング) として社会に提唱している。

日本YMCA同盟・年間基本聖句

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」

(ローマの信徒への手紙12章12節)

日本YMCA同盟・年間基本聖句として、日本YMCA中期計画1年目を「レジリエンス」、2年目を「リカバリー」の年度と捉え、「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」を選んだ。YMCAは地域社会での働きを通して、まず希望の光や恵みをわかち合い、苦難や困難に耐えながらも、徹底して人びとに寄り添い、祈る。創立時、若者がまさに「暗闇の中」で見出したYMCAの力、それを今こそ思い起し、リカバリーしていく原動力としたい。イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方の根本となる「希望を示し、苦難を耐え、祈りつつ」前に進むことを繰り返し循環していくことは、「みつかる。つながる。よくなっていく。」、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を示唆している。

前 文

■リカバリーの力を発揮する：

レジリエンス、リカバリー、リイマジネーション

いま、世界中のYMCAは、歴史的な同時パンデミックの中を歩んでいる。世界YMCA同盟では、2020年当初から、「レジリエンス」の構築、「リカバリー」の開始、「リイマジネーションの試み」を掲げ、奮起を呼びかけて来た。「レジリエンス」とは私たちの内面的な強みを共有し、地域に仕えること、「リカバリー」はどのように方向転換するのが最善かを考え、新しい現実に直面し強みを発揮するために、若者がいる場所で彼らに出会うこと、デジタルへのチャレンジをすること、「リイマジネーション」とは、新しい価値の創造に向かっていくことと説いている。

日本のYMCAでも、地域に根差して社会のレジリエンスに仕えてきた全国のYMCAの働きが、2022年度により明確に強められ、社会のリカバリーを導くために力を発揮できるよう目指してゆく。そのために、日本YMCA同盟では、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を目指す「日本YMCA中期計画Ⅲ(2021-2023)」の2年目の推進に努める。

■コロナ禍でのブランディング推進

ブランディングによって明確化された日本YMCA運動の vision・value・personalityは、「日本YMCA同盟中期計画Ⅰ」(2014-2016)、「日本YMCA中期計画Ⅱ」(2017-2020)と継承され、今期中期計画は3期目となる。2期目の中期計画では、事業の領域を4領域に示し、特に「子育てと子育て(領域Ⅰ)」と「社会に貢献する(領域Ⅳ)」を強めるよう進めてきた。

教育・保育、学童保育・発達障がい支援などの「子育てと子育て」事業強化は、結果的にコロナ禍で社会を支える保護者をサポートするエッセンシャルな事業として継続され、地域のレジリエンスを強め、財政基盤ともなった。発達に課題のある人びとへの支援はインクルーシブな社会の創出に、「子育てと子育て」支援は女性の社会参画を促進するジェンダー平等の働きとなっている。

「社会に貢献する」事業では、コロナ禍で顕在化したデジタル格差や、体験格差を埋めるなど、社会課題解決を目指すポジティブネット募金やプロジェクト型寄付として地域社会や

企業、若い世代の共感や参画が広がり、新たな寄付、協力者の獲得、SDGsへの関心の喚起など、ダイバーシティのある社会の端緒を示すことができた。これらは結果として、コロナ禍でのブランディング推進として、今期の日本YMCA中期計画への流れを創り、財政的にも、パートナーシップの拡大にも寄与してきた。

■いまこそ、一人一人がChange Agentとして

賜物を結集する

加盟YMCAが、2022年度もこれらの事業を含め、より一層、地域の社会課題、ニーズに対応した事業開発を進め、財政の健全化、健康経営を目指すべく、総主事会議の経営タスクなどに専門性のあるボランティア、レイパーソンの参画を促し、知見を共有して進めていく。災害が頻発し、感染対策も含め、安全にYMCAに参加できる施設・環境の整備が急務となっており、オンライン安全研修会などで安全性の向上にも注力する。

地域行政・諸団体・企業とのパートナーシップによる課題解決とのためのスタッフ研修、そしてYMCAの委員・会員、リーダー・リーダー出身者、会員・保護者、スタッフ、学生YMCA、ワイズメンズクラブなど、一人一人がChange Agentとして賜物をいまこそ結集できるよう参画の機会を創出し、地域社会にPositive well-being(ポジティブ・ウェルビー

ング)を広げていく。その広がり先の先にこそ、コロナ禍以降へ向け、リカバリーするYMCAがあり、そのために日本YMCA同盟は加盟YMCAの期待に応える働きを強めていく。

■世界に連なる

世界のYMCAでは、2022年7月に、世界、地域社会の課題に世界的規模で立ち向かうビジョン、「世界YMCA VISION2030」を策定する。子どもや高齢者、障がい者、外国につながる人びと、社会的に弱い立場にある人びとの人権が軽んじられ、ユースのメンタルヘルス、青少年・女性の自殺の増加、不登校が過去最高になるなど家庭や社会で生きにくさを抱える人々が急増している。

ウクライナへの侵攻、ミャンマー、香港などの民主化への弾圧や世界的な分断が起き、紛争も絶え間なく続き、難民の増加など平和を脅かす事態が広がっている。地球温暖化に伴う自然災害や地震などの災害も多発している。ユース・エンパワメントの世界大のネットワークの一員として、正義と公正を求める働きに寄与していきたい。

全国のYMCAが希望をもって喜び、共に日本YMCA中期計画、世界YMCA VISION2030に連なり、地域社会の課題と向きあう働きができる、日本YMCA同盟の事業方針・計画とする。

日本YMCA同盟 総主事 田口 努

1 Positive well-being

Positive well-beingを提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。

ブランドコンセプトで掲げる「ポジティブネットのある豊かな社会の創造」を、この間の社会の変化を捉え、人間性の回復と人と人との連帯をPositive well-beingとして提唱していく。社会参画によって培われる人々の心身の健康と全人的な成長をYMCAのコアコンピタンスとし、YMCA伴走サポートの推進、全国YMCAの活動支援とその相乗効果を促進する働きを行う。

ブランディング及び日本YMCA中期計画(2021-2023)を推進する。

2 Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

閉塞感を持つ若い世代のメンタルヘルスに注視し、夢を持ち、自己実現のために参画できる機会を創出する。若いスタッフへのリフレッシュの体験や学びの機会、全国YMCAユースボランティア・学生YMCAの活動強化、中高生や青年期のユースによる社会課題解決のための社会的起業や社会提案の働きの支援等、時代のニーズを探り、次の世代につなぐYMCAの姿を示す。

3 Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

ITやAIを活用し、デジタル格差の解決に寄与する教育機会の提供、ステークホルダーとの対話と交流の機会の創出、オンラインによる子育て支援や相談事業等、日常の合理化・効率化を、全国YMCAと共に進める。ユースのメンタルヘルス、気候変動等をテーマとしたグローバルのユースのコミュニティへ、全国YMCAが参画できるよう支援する。

4 Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。

心身の健康、気候変動、平和構築、ジェンダー、社会的包摂等、顕在化した世界・地域の課題について、目的を同じくするワイズメンズクラブを筆頭に、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし解決を図る。プロジェクト型寄附を社会協働事業として深め、社会からの共感、支持される「寄附を受ける団体」としてYMCAの姿を強める。

5 Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨みChange Agent (Global Servant) の育成に注力する。

YMCAに連なる委員・会員、リーダー・リーダー出身者、会員・保護者、スタッフ、学生YMCA、ワイズメンズクラブなど、一人一人がChange Agent (「変化のために動き出す人」「変化を求める人」「変化を求める人を応援する人」として、賜物を結集できるよう参画の機会を、日本YMCA同盟協議会、日本YMCA大会をはじめ、創出する。

世界・アジアにおいて一人一人の命と尊厳が守られるよう、祈りをもって、平和を創り出す運動を起していく。

6 全国のYMCA運動の連結ピンとしての同盟機能の維持に努める

世界・アジアに連帯し、特に世界YMCA大会への参画を通して、グローバルブランドとしての価値を高める。全国YMCA代表機能として、国内外の国際的な青少年団体、NGO・NPO、関係諸団体、社会的起業関連団体、企業、行政・政府機関、助成団体との連携を深め、情報提供や全国YMCAの事業強化、プロジェクト型寄附や他団体との協働につなげていく。

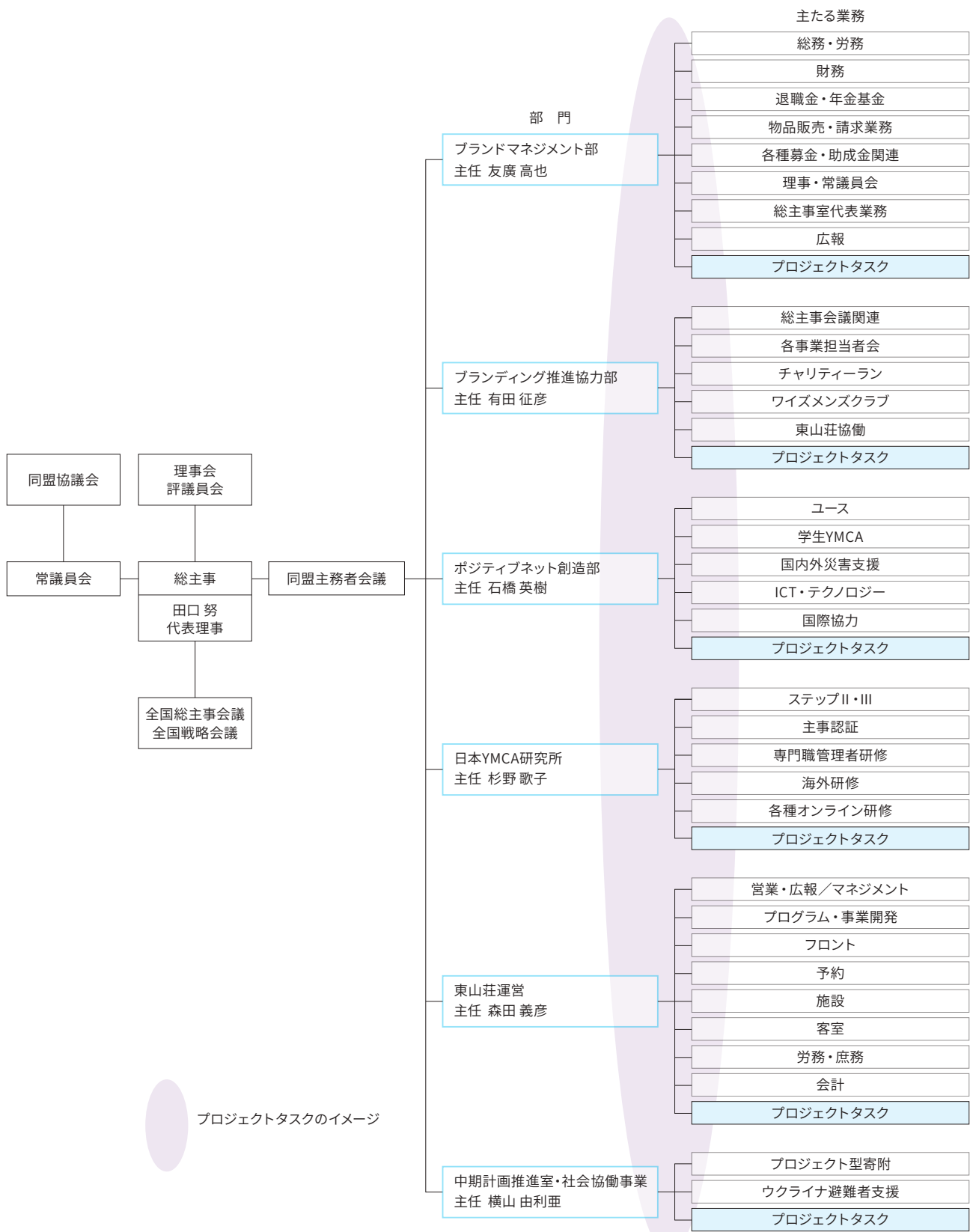
全国YMCAの財政再建、将来構想が強まるよう、全国YMCA総主事会議、事業担当者会、経営タスク等の事務局機能を務める。国内外で発生する災害・紛争について機動力をもって人道支援の観点から支援協力・募金活動を展開する。

7 同盟事務局機能の効率化とYMCA東山荘の再建、運営強化を目指す

ハイブリッドを活用した全国YMCAスタッフ研修の展開、困難な状況にあるYMCAの個別支援、退職金中央基金・職員年金基金の安定化、全国YMCAに資する広報・アドボカシー活動等に努める。

YMCA東山荘の安定した運営を目指し、近隣地域との連携の強化、自然体験の価値訴求、SDGsに対応した施設の改修計画立案等を進め、グローバルな人材養成を進める国際青少年センターを確立する。

日本YMCA同盟 2022年度組織図



全国YMCA一覽

都市YMCA

北海道YMCA
(011) 561-5217 札幌市中央区南11条西11丁目2-5

盛岡YMCA
(019) 623-1575 盛岡市中央通3丁目7-18 ラ・ベルヴィ中央1F

仙台YMCA
(022) 222-7533 仙台市青葉区立町9-7

ぐんまYMCA
(027) 234-2299 前橋市国領町1-4-1

とちぎYMCA
(028) 624-2546 宇都宮市松原2-7-42

茨城YMCA
(029) 886-6005 つくば市東新井24-7

千葉YMCA
(043) 222-6973 千葉市中央区富士見2-5-15 塚本第三ビル7F

埼玉YMCA
(04) 2939-5051 所沢市小手指町1-39-2

東京YMCA
(03) 6302-1960 新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F

在日本韓国YMCA
(03) 3233-0611 千代田区神田猿楽町2-5-5

横浜YMCA
(045) 662-3721 横浜市中区常盤町1-7

山梨YMCA
(055) 235-8543 甲府市中央3-10-7 本館2F

静岡YMCA
(0557) 81-3986 熱海市上宿町19-22 熱海郵便局私書箱31号

富山YMCA
(076) 425-9001 富山市堤町通り1-3-14

金沢YMCA
(076) 255-7782 金沢市見里町44番地1-201

名古屋YMCA
(052) 757-3331 名古屋市中千種区春岡1丁目2-7

三重YMCA
(059) 331-8011 四日市市阿倉川町3-17

滋賀YMCA
(0748) 33-2420 近江八幡市鷹飼町537-3

京都YMCA
(075) 231-4388 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2

奈良YMCA
(0742) 45-5920 奈良市西大寺国見町2-14-1

大阪YMCA
(06) 6441-0894 大阪市西区土佐堀1-5-6

和歌山YMCA
(073) 473-3338 和歌山市太田1丁目12番13号

神戸YMCA
(078) 241-7201 神戸市中央区加納町2-7-11

姫路YMCA
(090) 3625-6820 揖保郡太子町原白毛山921

YMCAせとうち
(086) 223-1509 岡山市北区中山下1-5-25

広島YMCA
(082) 228-2266 広島市中区八丁堀7-11

松山YMCA
松山市清水町4丁目75-3-201 砥綿方

北九州YMCA
(093) 531-5750 北九州市小倉北区鍛冶町2-3-9

福岡YMCA
(092) 831-1771 福岡市城南区七隈1-1-10

長崎YMCA
(095) 822-5987 長崎市恵美須町4番7号 YMCAビル1階

熊本YMCA
(096) 353-6397 熊本市中央区段山本町4-1

鹿児島YMCA
(099) 296-7901 鹿児島市真砂町34-6 吉永ビル209号

沖縄YMCA
(098) 832-6817 那覇市壺屋2-17-3

学生YMCA

北海道・東北 (6)
北海道大、弘前大、弘前学院大、岩手大、東北大、
尚絅学院大学 (設立準備中)

関東 (10)
東京大、早稲田大、立教大、慶應義塾大、
国際基督教大、中央大、一橋大、フェリス女学院大、
清泉女子大、山梨英和大 (設立準備中)

関西 (8)
京都大、京都市立医科大、同志社大、大阪大、
大阪YMCA国際専門学校、関西学院大、神戸大、
神戸女学院大

中四国 (5)
岡山大、広島大、鳥取大、広島女学院大、
四国学院大 (設立準備中)

九州 (5)
九州大、西南学院大、熊本大、長崎大、
九州ルーテル学院大

連絡大学YWCA (3)
宮城学院女子大、同志社女子大、活水女子大

学生YMCA寮

北海道大学YMCA汝羊寮
(011) 736-9918 札幌市北区北12条西2丁目1-20

东北大学YMCA涇水寮
(022) 249-3564 仙台市太白区大崎町8-1

東京大学YMCA寮
(03) 3811-1778 文京区向丘1-20-6

一橋大学YMCA一橋寮
(042) 843-0542 国立市東1-20-12

早稲田大学YMCA信愛学舎
(03) 3203-2858 新宿区西早稲田2-5-2

京都大学YMCA地塩寮
(075) 751-9744 京都市左京区吉田牛ノ宮町21

京都市立医科大学YMCA橘井寮
(075) 771-6913 京都市左京区吉田牛ノ宮町22

九州大学YMCA一麦寮
(092) 707-6464 福岡市西区元浜1-30-3

長崎大学YMCA浦山寮
(095) 846-9241 長崎市上銭座町3-13

熊本大学YMCA花陵会
(096) 343-1432 熊本市中央区黒髪2-27-21

2021年度事業報告書

Annual Report 2021

2022年6月1日発行

発行 公益財団法人 日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号

Tel 03-5367-6640 E-mail info@japanymca.org

制作 pros creative



みつかる。つながる。よくなっていく。